



市でウクライナ避難民を受け入れ

市は、4月にウクライナ避難民の受け入れをしました。市と市内企業が一体となって支援を行い、市からは市営住

宅の無償提供、支援金を支給、市内企業からは食料品や日用品などが提供されました。

4月14日には市内に避難してきた親子が、市長を表敬訪問し、感謝を伝えました。

大塚製薬と市が包括連携協定を締結

4月7日、大塚製薬と市は、一層の市民サービスの向上と市民の健康的な生活を実現することを目的とした包括連携協定を締結しました。今後、相互に連携しながら、双方の資源を有効活用した協働

による活動を推進していきます。連携取り組みの第一弾として、共同で熱中症予防啓発ポスターを作成し、市内各所へ掲出することで、熱中症予防対策を呼びかける予定です。

ガンバ大阪吹田市民応援デーを開催

ガンバ大阪吹田市民応援デーが5月8日に開催されました。市民応援デーの開催は約3年ぶりで、応援に多くの市民が訪れ、Panasonic Stadium Suitaはガンバ大阪サポーターで埋め尽

くされました。試合は、ガンバ大阪がヴィッセル神戸に2対0で勝利し、ガンバ大阪サポーターは喜びを分かち合いました。



ガンバ大阪吹田市民応援デー



大塚製薬関西第一支店 吉田卓史支店長(左)と後藤市長(右)



市長コラム No.82

こもれび通り

壁

後藤圭二



コラムの音声版はこちら

今年3月に開催した本市の名誉市民であられる吉野彰^{あきら}さんとのトークショーで「壁に当たる。それは前進している証拠だ」という言葉がありました。それは、絶望直前の我が身を再び奮い立たせる、研究人生で幾度となく見上げた強固な壁を、諦めることなく乗り越えてきた吉野彰さんの魂が込められた言葉でした。

これまでのノーベル化学賞受賞者の研究の流れをくんだご自身の研究を「私の研究成果は先人の研究結果があってこそ」と言います。高度に進歩した科学の世界で、独力で全てを成し遂げることはまず不可能です。しかし、バトンを受け継いで最後にゴールテープを切るランナーには、特別な運命的才能が与えられていることは間違いありま

せん。吉野彰さんの柔和な笑顔の奥には「諦めてたまるか」という強固かつ、しなやかな魂を強く感じました。

「壁」は突き当たりそうになれば、横をすり抜けたりバックして道を変えたりして避けることができます。しかし、まっすぐに進む信念があるなら逃げることなく乗り越えなければならない。それを繰り返してきた吉野彰さんの生きざまに敬意を覚えました。

私たちも、人生を懸けて壁に立ち向かうべき「ここ一番」に必ず遭遇します。そこを周囲の力をうまく借りて一人で戦わない、そのことも教えていただきました。

